

令和4年度 東永谷地域ケアプラザPDCAシート_公表用 (事業計画書、事業報告書、事業実績評価)

— 総括表 —

◆ 事業計画

地域の現状と今後の方向性

担当地域は、大久保最戸地区、永谷地区(東永谷1~3丁目)、永野地区(上永谷1~3丁目)になります。いずれも起伏の多い地域で、移動や買い物の支援が必要な高齢者等が多くなってきています。また高台周辺は昭和30年代後半から開発された戸建住宅の新興住宅地で、高齢者夫婦のみの世帯や単身世帯が増加しており、今後は空き家問題の増加も予想されます。

地区内に学校が点在していますが、コロナ禍により以前の様な連携が難しくなっています。子どもの安全、孤食、学習支援などの福祉的課題を学校・地域とともに共有し、協働して取り組む必要があります。

全地区に福祉ネットワーク(地域住民による助け合い活動)がありますが、担い手の高齢化による新たな人材確保や自治会町内会単位での助け合い活動が立ち上がった所もあります。

コロナ禍でストップしていた地域活動が概ね再開していますが、現状に合わせた実施方法を模索しながらとなっています。

今年度の重点的な取組

新規	継続	— 具体的な取組内容 —
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	高齢者サロン「ひなたぼっこ」等の自主事業、また地域の体操教室、配食サービス「てまり」との定例会等様々な機会を捉えて支援が必要な方の情報を収集、必要に応じて包括へとつなぐ
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	エリア内の小中学校や地域のボランティア、地区社協、主任児童委員、こども会、NPOなど学齢期の子どもの支援をしている団体等で集まり、情報の共有や課題の確認を行う場を作る。
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	・見守り協力事業者の連絡会を開催し、見守り意識の啓発を行うとともに、地域と事業者のつながりも構築したい。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	ひまわりホルダーやエンディングノート、見守り協力事業所等港南区独自のものについて、チラシ・広報紙・掲示板などを活用し、広く地域住民に周知する。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	それぞれの部門会議や5職種会議(毎月定例実施)に他部門の職員が参加する機会をそれぞれ1回以上つくり、個別課題・地域課題についての検討を行う。

◆ 事業報告・事業実績評価

振り返り

・コロナ禍ではあるものの、ケアプラザ事業も地域も動き出した1年だった。地区センターとの共催で行っている11月の『ふれあいまつり』も3年ぶりに開催するなどできた。部屋利用についても利用制限が撤廃されるなどしたことで、地域活動がより活性化した。レコードを楽しむ活動や、男性グループの入れたコーヒーを楽しむ活動なども参加者数が増え、利用者・活動者ともに楽しんでいた。

・地区別の地域福祉保健計画では、特に大久保最戸地区における障害理解の取組が大きく進んだ。講演会、障害当事者家族との交流会、映画の上映会と3つの事業を地区社協中心に実施するなど、それまでにない新たな取組にチャレンジしたことで障害当事者との関係構築が大きく進んだ。

・ケアプラザとしては各職種が連携し、情報を共有するとともに、各職種が専門職としての見立て(質的評価)と数字から読み取れる事(量的評価)をもって地域を分析し支援方針を検討し対応することができた。

区からのコメント

地区センターとの連携事業や介護者の集いを活用しての認知症の普及啓発など、5職種が連携することで、一つの事業に複数の目的を持たせた、横断的に事業を展開できる強みがあります。サービス未利用の方や独居の方のみの講座は、予防的な関わり、定期的な見守りの機会として効果を生んでいます。また、民間企業や地区センターなど、関係機関と協働して事業を展開することで、幅広い世代にアプローチができています。地域ケア会議は地域の方の声を元にテーマを設定することで、課題解決に向け参加者が主体的に取り組める内容となりました。他の地区への広がりも期待しています。

コロナ禍でもあり、今年度はまだ顔の見える関係づくりが難しかったと思いますが、次年度は今年度できなかった交流会等の実施にも期待します。大久保最戸地区社協での障害理解の動きについては、現時点で、課題検討が進められる話し合いの場の設置には至らなくとも、地域の障害理解を進めた取組だったと思います。引き続きの働きかけをお願いします。相談月報システムの活用などで、相談内容の分析から地域課題を把握し明確化していく取組が進んでいるますが、今後も分析から導き出した仮説をもとに取組を継続して頂くと共に分析の精度を高めていただければと思います。